



かが

No.545

平成13年

11



■小池市長市政報告

・65歳以上のインフルエンザ
予防接種を無料に……………23

■長年の功勞・功績を讃え……………45

■低所得世帯の介護保険料を軽減……………6

■歯の健康「入れ歯安定剤」……………7

■加茂の風土記……………8

11月3日 加茂川漁協の「鮭祭り」祭り

市政報告



加茂市長

小池 清彦

六十五歳以上の方々に、インフルエンザの予防接種を実施することになりました。

加茂市は、無料で実施いたします。今月十一月二十日(火)以後、次に掲げる医院で実施いたしますので、御希望の方は、あらかじめ予約された後にお出かけください。

このたび、予防接種法が改正され、六十五歳以上の方々には、各市町村でインフルエンザの予防接種を実施することになりました。

お気軽においでください
市民と市長の「よもやま話」の日

十二月二十日(木) 午後一時三十分から行います
二十六日(水) 時間等については御相談ください

【受付・問い合わせ】 市役所3階総務課広報広聴係
(☎52-00080 内線323)
までお願いします

所要経費は、一人四千八百一円で、加茂市では約千五百八十万円の経費が必要であると見込まれておりますが、国がその約二割を負担し、加茂市が約八割(千二百六十万円)を負担いたします。

また、ほとんどの市町村では有料となり、一人千五百円程度自己負担をしなければなりません。加茂市は日本一の福祉のまちとして、あわせて日本一の健康のまちを目指しており、加茂市の経費負担により無料といたします。

高齢の方々がインフルエンザにかかれると症状が重くなり、肺炎などを併発されることも多く見られます。

市民の皆様におかれましては、できるだけ多くの方々が、インフルエンザの予防接種をお受けになり、健康で長生きをしてくださいますようお願いしております。

高齢者のインフルエンザ予防接種を

実施する指定医療機関

加 茂 市								医 療 機 関 名	電 話 番 号
桜井医院	小林医院	小池医院	監物小児科医院	小柳医院	大谷内科医院	薄木医院	いからし小児科 アレルギークリニック	青柳医院	五二一〇二三五〇
五二一八二七	五二一三〇四二	五二一〇三八	五二一〇八〇〇	五二一〇三三〇	五二一〇二三六	五二一一二六一		五二一九五一	

田 上 町	加 茂 市														
田中医院	田上診療所	須田医院	今井医院	県立加茂病院	鷺塚医院	吉村医院	皆川小児科医院	本間医院	堀内医院	服部クリニック	にのみや内科クリニック	二宮医院	ながば医院	中村医院	千葉医院
五七一〇二四	五七一五〇一五	四一五〇二五	五七一三九	五二一〇七〇一	五二一〇五四	五二一〇三七	五三一三五三〇	五二一八九三六	五二一〇九五三	五三一四六八〇	五七一〇七七〇	五二一五二〇	五三一〇七五一	五二一〇〇九五	五三一三八五〇

長年の功労・功績をたたえ

今年、秋の叙勲・褒章で加茂市から四名の方が受章されました。この受章された方々に、これまで積み重ねてきたことと、受章についてお聞きしました。

勲六等宝冠章

(社会教育功労)



有本タイさん
(穀町・72歳)

上京していた出先で受章の知らせを受けました。「信じられませんが、望外の喜びと重みを感じています。至らない私をこれまで支えてくれた会員の皆さんは私の宝、財産で、連合婦人会は本当にすばらしい人材の宝庫です。皆さんに私から感謝状を差し上げたいくらい」と、周囲に感謝します。

師と仰ぐ「長谷川マサ先生に口説かれて三年余」昭和四十七年六月から婦人会活動に身を置き、昭和五十五年から加茂市連

合婦人会長、平成十年から新潟県婦人連盟副理事長とともに現在まで務めています。この間、長谷川先生からは「常に目線を下げなければならぬ」と教えられ、もう一人の恩師である更科アイ先生からは「社会教育分野における家庭教育の重要性」について薫陶を受けたと言います。「お二方とも本当にすばらしく偉大な方で、いつも会員と一緒に実践活動しておられた」と振り返ります。

加茂文化会館における県婦人連盟総会と県婦人大会に県内から一千人の参加を得た盛会ぶりについて「婦人会は専らボランティア団体だが、市と会の太いパイプは県でも高く評価されている」ということです。

「社会教育に境界線はない」の言葉どおり、加茂市の表彰審議会委員、社会教育委員副議長、花と緑をいっばいに

する会副会長のほか、各種委員など今も二十を超える公職に忙しい毎日です。

勲六等瑞宝章

(地方自治功労)



橋本ヤスさん
(大郷町二・65歳)

「どうして私なんか？ ただ長くやってきただけなのに。よき先輩や同僚の理解と、変則勤務の仕事場だけに家族の協力があって四十二年間勤め上げられた」と、受章に恐縮します。

橋本さんは、臨時採用の十七歳から調理員として県立加茂病院に勤め始め、病院の裏方として健康な人のメニューのほか、

患者の病状に合わせたさまざまな食事が要求され、看護学校の生徒の分まで作った戦場のような調理場も経験しました。そんな中で厳しく問われた衛生管理には細心の注意を払い「食中毒など何事もなかったのが一番」と胸をなで下ろしています。

除雪機械のまだ珍しい三八豪雪のときは、早番だと夜明け前の五時ころ家を出て腰まで埋まるほどの雪山を通いました。加茂川水害のときも、濁流が床上海まで押し寄せた中で当時の国鉄

勲六等瑞宝章

(地方自治功労)



渡辺長生さん
(本町・66歳)

叙勲の知らせに「晴天のへきれきというか、思いもつかないような戸惑いを感じている。たまたま後輩たちが推薦してくれたのだと思うが、本当にいい先輩、同僚、後輩に恵まれて仕事ができたと」と四十一年間を振り返ります。

渡辺さんは、今みだりに通勤の便もあまりよくなかった昭和

の鉄橋を渡って病院まで行きましたが、一階調理場も泥水に浸かり三条市の病院からの炊き出しで急場をしのいだものの、その後の消毒作業が大変でした。

仕事と家事で、あまり趣味を持てる時間ありませんでしたが、退職後は若いころ少しやっていた山登りを再開、ベテランの夫や友達と楽しんでいきます。「もう、この年ですから、車などで途中まで行けるような山がほとんど」と苦笑します。

三十年から平成七年まで、新潟市の職員として主に保健所など衛生、保健・健康行政一筋に携わりました。「入った年の新潟大火は、風向きで市役所は免れたものの新潟地震よりショックだった」ということです。新潟地震のときも道路がごみの山となった非常事態に、地区公民館に居住して消毒の仕事を受け持ちました。

ヤナギと堀のまち新潟も、昭和三十年代は伝染病を媒介するカ、ハエ、ネズミなどが大量発生し害虫駆除、衛生環境の整備が求められていました。その後、生活様式の変化、向上に伴い、保健・健康部門の仕事へ移っていきました。

「以前は新潟の友達とよくゴルフに行ったが、今もじっとしているのが嫌いで、好きな家庭菜園作りのほか、山菜採りやキノコ採りなど山歩き、近郊の目黒り温泉を回っています」。

藍綬褒章

(更生保護功績)



有本榮一さん
(寿町・75歳)

平成四年秋、加茂鉄工業協同組合理事長として黄綬褒章を受けて以来、二回目の受章に「ただ保護司として長く務めてきたことが、たまたま該当したのだと思う。いずれにしても先輩、同僚の皆さんの指導、協力のたまもの」と感謝の言葉です。

有本さんは、昭和五十二年五月から二十四年余り保護司として地道な活動を続け、平成十年からは田上町と二十三名で構成する加茂地区保護司会の会長を務めています。

保護司の仕事は保護観察と犯罪予防活動が二本柱ですが、立派に更生した人がまちで声を掛けてくれると「保護司の仕事

をしていて、そういうときが一番うれしく本当によかった」と実感します。

全国的な犯罪の凶悪化と低年齢化に伴い、最近では犯罪予防活動の仕事の比重が大きくなり、社会を明るくする運動では中学校区ごとにミニ集会を開いて地区住民に犯罪予防をアピールしています。年二回、全戸配付の会報「博善」の発行も二十六号を数えます。

年数回の研修会に加えて、地区保護司会会長や県保護司会連合会常任理事になってからは会議も多く、実質的にはボランティア活動です。趣味は？の問いに「趣味のないあまりおもしろくない男」と笑いました。

黄綬褒章―長年にわたり業務を勤め、一般の模範に値すると認められた人に贈られる
紅綬褒章―自らの危険を省みず人命の救助に尽くしたこと

に贈られる
紺綬褒章―公共・公益のために多額の私財を寄付した人に贈られる

紫綬褒章―学術・芸術などで特に優れた発明・改良・創作をした人に贈られる

藍綬褒章―公共の利益を増進した功労をたたえて贈られる
緑綬褒章―徳行が優れ、実業に精励した人に贈られる

ネパールの秘境ムスタンで活動する近藤亨さんに新潟日報文化賞 読売国際協力賞



加茂市出身で現在、ネパールの秘境ムスタンで地域開発のNGO（非政府組織）活動を展開しておられる近藤亨さんが、このほど第五十四回（平成十三年度）新潟日報文化賞と読売国際協力賞を受賞されました。

近藤さんは、一九七六年に国際協力事業団（JICA）からネパールに派遣され、ムスタン地区で果樹栽培等の農業技術指

導を行っていましたが、定年後は私財をなげうって、再び現地を訪れ、高地での水稲栽培を成功させたほか、学校や病院を建設・運営するなど、あらゆる分野での住民生活向上に情熱をそそいでいます。

今年九月、加茂で講演されたとき、「現地の皆さんの自立をいかに助けるか、がボランティアの大切なところですよ」と話され、八十歳となった今も、現役で活躍されている状況を説明されました。

受賞は、近藤さん自身がネパール・ムスタンという地域の現状を理解し、現地からの理解と信用を得た活動に贈られたものです。

中国ツォーボー市から2年ぶりの代表団

十月三十・三十一日の日程で王先義・ツォーボー市人民政府外



事弁公室副主任を団長とする六名が加茂市を訪問しました。ツォーボー市代表団の来訪は、一昨年のツォーボー市長の来市から二年ぶりです。

代表団のメンバーは私立学校の経営者などで構成され、茨中学校・加茂暁星高校・新潟中央短期大学・新潟経営大学を精神的に視察、その運営や管理のほか、学校同士の交流の可能性についてにも質疑をかわし、短い



時間の中で交流を深めていました。そして、三十一日夕方に加茂市を後にしました。

介護 低所得の方の 保険 介護保険料を減免

今年10月から 保険料負担軽減を図るため

減免の条件

①保険料の賦課段階が、第一段階（生活保護受給者を除く）または第二段階であること。

◆第一段階 — 生活保護受給者（減免対象外）または、世帯全員が住民税非課税の老齢福祉年金受給者。

◆第二段階 — 世帯全員が住民税非課税。

②世帯の年間収入金額が、八十万円（世帯員が二人以上の場合、一人につき四十万円を加算した金額）以下であること。

※収入には、障害年金、遺族年金等の非課税年金や、他からの仕送りなどを含みます。※営業収入については、総収入から仕入れ金額、外注費、材料費などを控除した金額を収入金額とします。

③住民税が課税されている人に扶養されていないこと。

※医療保険や税の申告において、世帯外で住民税が課税されている人は、対象になりません。

④住民税が課税されている人が、生活の援助を受けていないこと。

※世帯外で住民税が課税されている人から、生活費や家賃などを負担してもらったり、住まいを提供してもらったりしているなど、生活の援助を受けている場合は、対象になりません。

⑤資産などを活用してもなお、生活が困窮している状態にあること。

※居住用以外に土地・家屋を所有している場合や、世帯で一定の預貯金（三百五十万円超）を保有している場合は、対象になりません。

減免額 本来の保険料額の二分の一。

適用年月日 今年度中の申請については、平成十三年十月分の保険料から適用します。

申請手続き 印鑑、介護保険料納入通知書、年金振込額のお知らせ通帳などをお持ちください。

申請先 税務課民税係
問い合わせ 税務課民税係（内線125）または、在宅介護・看護支援センター（☎41-4032）へ。



南北に長く、複雑な地形の日本では、冬の訪れにも時間差があります。北海道や東北地方では、十月の中ごろになると初霜や初氷が観測され、そろそろ冬が近いことがうかがわれます。

十一月に入ると、西高東低のいわゆる冬型気圧配置が現れるようになり、比較的温暖な地方からも木枯らしの便りが届き始めます。

暖房器具が欲しくなるのは、一般的に朝の最低気温が8℃に下がるころからといわれます。東京を例にとると、最低気温の平均が8℃ぐらいになるのは十一月二十日過ぎ。昭和の中ごろは十一月三、四日には8℃になっていたといえますから、やはり温暖化は進んでいるようです。

十一月も下旬になると、ストーブやこたつの準備をしたり、暖かいコートやマフラーなどの防寒具を取り出したり

冬支度

と、冬支度も本格的に。雪の多い地方では、草木などをわらやむしろで覆う雪囲いや、木の枝をつり上げる雪吊りの用意をして雪害に備えます。自動車タイヤをスタッドレスタイヤにはきかえるのも、雪国ならではの冬支度です。冬に備えての漬物づくりも盛んに行われます。東北地方では農山村地域を中心に、今でも自家製の漬物を作る家庭が多く、春まで食べるのに十分なだけの漬物の仕込みをするこの時期は大忙しです。信州では、野沢菜漬けにする菜を洗う光景があちこちで見られます。冬の訪れを実感させる風物詩です。



小中学生の視点から加茂をPR

ふるさと愛護ポスター

ふるさと愛護ポスターは、市内の小中学生がそれぞれの視点でとらえた「私たちの住むまちの大切にしているもの」をデザインしています。入選したポスターは、市民体育館ロビーに展示されており、さまざまな表紙やイベントで利用されます。ポスターの利用などについては公民館にお問い合わせください。入選された皆さんは次のとおりです。(敬称略)



特選・田邊望さん (石川小3)

【金賞】▼小学校 吉田英理華 (石川小5)
 【準特選】▼小学校 本間ふみ (加茂三) 諸橋彩 (石川四) 五十嵐創 (下条五) 相田翔平 (石川六) ▼中学校 高橋依里 (須田二) 西村佳織 (同二) 渡辺芳美 (同) 小野智子 (七谷三)

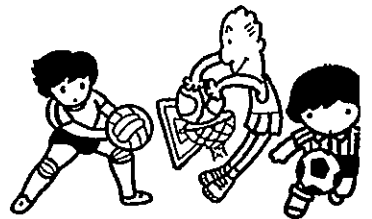
川三) 外山結依 (七谷四) 丸山裕久 (須田五) 玉川庸 (同六) ▼中学校 志田奈津実 (須田一) 武内香保里 (葵二) 堀内理華 (葵三) 関川綾奈 (須田二) 長沢舞 (加茂二) 波塚香里 (七谷三)
 【銀賞】▼小学校 番場美穂 (加茂南三) 久保優輝 (石川三) 阿部詩織 (加茂南四) 捧 惠美 (加茂西四) 有本由佳 (下条五) 番場亮太 (加茂南六) ▼中学校 知野麻依子 (須田一) 石野真人 (葵二) 中澤賢太 (須田二) 小日向祐美 (同) 斎藤恵利華 (七谷三)
 【銅賞】▼小学校 渡辺薫 (加茂五) 樋口一希 (加茂西五) 橋本彩乃 (石川五) 阿部悠 (加茂南六) ▼中学校 小嶋美樹 (七谷二) 茂野友美 (同) 岡 里美 (須田二) 内川智晶 (葵二) 堀井幸子 (同) 田澤佑依 (同) 目黒聖 (七谷二) 磯部翔子 (加茂二) 中野理砂 (七谷三)

かち自慢
 特選・長谷川研人さん (下条小5)

第44回 総体結果



サッカー



期日 九月二十三日
 会場 新潟経営大学グラウンド・加茂農林高校グラウンド

【高校・一般】
 ① トーマス ② A C K A M O ③



バスケットボール

南郷SC、分水VICTORY

期日 十月十三・二十一日
 会場 加茂中学校体育館 勤労者体育センター

【中学校女子の部】
 ① 葵中A ② 若宮中二年 ③ もつちヤリたい (葵中)、若宮中一年
 【二般男子シニアの部】
 ① ドリーム ② 西加茂クラブ
 【二般高校女子の部】
 ① 加茂クラブ ② K N S
 【家庭婦人の部】
 ① W A K A M I Y A ② さわやかクラブ



バスケットボール

期日 十月二十一日
 会場 市民体育館
 【中学生男子(二年)の部】
 ① モンキーパンチ
 【中学生男子(二・三年)の部】
 ① チーム解の公式のプライド (若宮中三年A) ② ファンターズ (葵中三年A) ③ 受験生 (加茂中三年A)、大塚イケメン'S 11 (葵中三年B)
 【二般高校男子の部】
 ① 新潟経営大学B ② 新潟経営大学A ③ B O S S、湘南大相撲



最近、入れ歯がゆるくなり、はずれやすくなっています

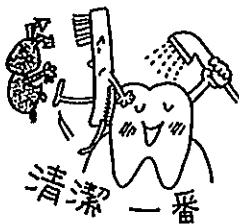
【Q】 入れ歯安定剤を使えばよいでしょうか？

【A】 義歯がガタついて食べにくいときや、しゃべりにくいときに

に、歯科医院に行くまでの間、応急的に使うのならかまいません。義歯がガタつくときに

入れ歯安定剤の使い方

は、あごの骨の一方所に圧力がかかるために、骨の吸収が起ります。義歯安定剤は軟らかく弾力があり、かえって一定の厚さを保つことができなため、圧力が



使用の際は、説明書をよく読み、正しい使い方を心がけましょう。

また、普段より手入れを念に行うことも必要です。そして何よりも早く、歯科医院で適切な処置を受けることが重要です。

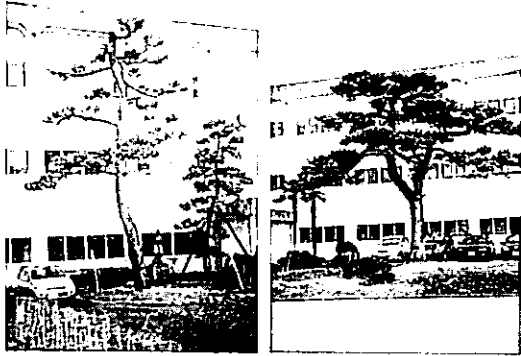
(加茂市歯科医師会)

須田小学校の植樹

須田小学校の創立は、加茂市で一番古く明治五年十月に克己館と銘打って開校した。これは同年八月三日文部省布達太政官布告「必ず邑に不学の戸なく家に不学の人なからしめん事を期す」に逸速く応えて鶴森組十八カ村の有志による私塾であった。

翌六年十一月、中鶴森に公立鶴森校を新築したが手狭になりまた行政区学区も変わり、同十二年「後須田に敷地を」の議も村会で一致を見ず、西村季松村長は「春以来米価の高騰、不作為で通常の村費徴収も困難のため新築の猶予を」と郡に啓申、借館して授業を継続した。

加茂の風土記



現在の須田小学校校舎前にある文中の植樹された松

二十四年郡の採可、後須田指定に対し、坂井次郎四郎、武石祐三郎、棒忠衛、渡辺半哉、岡川増蔵の上側五氏は取り消しを迫った。翌二十五年、山内郡書生の仲裁で和解、前須田三八四番現在の三階校舎付近に新築された（これも小須戸小学校舎を購入して建てられた）。

三年余りの上側下側の争いであったが、新築がなると村内各所より樹木の寄付があり、学校樹植栽園によると、開校記念に小林純蔵、渡辺半哉、小林永作、西村千代松、三十七・八年凱旋記念小林和一郎、小林謙吉、四十年西村新次郎、四十四年岡田

太郎、山内六左衛門等々、大層の樹木が寄せられた。

この校舎に三十二年、鉤手に二階建て校舎を増築したが、これは高等科を設けたためである。その後、生徒の増加で全部取り払い、大正三・四年に現在の体育館の場所へ八教室とほかに運動場を新築した（昭和四十三年までであった）。

大正五年十月八日「五反田渡辺氏ヨリ寄附本校舎前へ植込ミタル七株ノ内二株枯死ニ付猶二株寄附植込ム」とあり、五年十一月三日立太子式挙行、小林謙吉氏玄関前に松一株（中略）寄附とある。

今、校庭高台の赤松は昭和四十三年七月七日に小式沢松徳氏のもとPTA役員が二目ばかりで移植した。生徒入り口近く黒松の大木移植は栗田組によるがどれが渡辺氏、小林氏寄贈か判らない。ブロック塀内側の松並木は、昭和二十八年七月七日、小式沢甲五郎氏のもとPTAが田上町川船河上谷沢から根回しを施し二年がかりで移植したと聞く。

思うに、これら数多の樹木は先賢たちの教育と、その環境整備への情熱の象徴であり、他町村に先駆けての創立は決して偶然ではない。

(丸山 朝雄)



おめでとう

おめでとう

楽しく歩こう!!

十月二十八日、健康ウォークが開催されました。今年が開催前にクマの目撃情報が多くあり、コースを加茂川沿い、長谷、冬鳥越スキーガーデンへの往復コースとなりました。帰り際、雨に降られましたが、三百人を超える参加者はそれぞれのスピードで色づきはじめた紅葉を楽しんでいました。

第五十一回「社会を明るくする運動」民間協力功労感謝状贈呈

■一栄吹奏楽団（代表 森山道男さん）

一栄吹奏楽団は、十月二十五日糸魚川市で開催された更生保護大会において「社会を明るくする運動」への協力功労に対して感謝状が贈呈されました。

社会福祉費寄付金

▼小式沢久四郎さん（故・小式沢ミツイさんのご遺族 松坂町）から 三万円

▼斉藤恵作さん（青海町二）から 三万円

▼北陸ガス株式会社（ガス展チャリティ金）から 五万円

街路灯
▼東北電力株式会社三条営業所から 街路灯二十三灯

人口のうごき

11月1日現在
世帯 9,810 (+7)
人口 33,570 (-23)
男 16,281 (-13)
女 17,289 (-10)
()内は前月比

(10月異動分)
出生 26(男11 女15)
死亡 24(男13 女11)
転出 75 転入 50